

神奈川県立平塚江南高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した

審議会 名称	神奈川県立平塚江南高等学校 令和7年度 第2回学校運営協議会
開催日時	令和7年12月13日(土) 13:00～14:30
開催場所	神奈川県立平塚江南高等学校 会議室
[役職名] 出席者	<p>[委員] 宍戸 章子(会長)</p> <p>山崎 幸子 新田 圭子 香取 祐亮 鈴木 奏到 齋藤 弘 矢野 二三代 逸見 育磨(副会長、平塚江南高等学校長)</p> <p>[事務局] 岩崎 幸代(副校長)、佐藤 竜太(教頭)、今福 聡(事務長)、 島川 淳(総括教諭)、小坂 宏之(総括教諭)、森下 貴文(総括教諭)、 植田 渥士(総括教諭)、濱口 学士(総括教諭)、大谷 千鶴(総括教諭)</p>
欠席者	なし
資料	<p>令和7年度学校評価報告書(中間報告)</p> <p>進路関係資料</p> <p>生徒の活動関連・活躍する生徒たち ～防災教室アンケート結果より～</p> <p>SSH事業に係る取組一覧</p> <p>令和7年度前期授業評価アンケート結果</p> <p>地域連携について</p>
	<p>開会</p> <p>1 校長あいさつ</p> <p>[逸見校長]</p> <p>本日、大変お忙しい中、お集まりいただき、感謝申し上げます。第1回会議が6月14日に行われたが、それ以降の最近の学校の様子について報告する。</p> <p>6月14日以降の活動として、体育祭について報告する。体育祭は6月18日に予定されていたが、急な気温の上昇により、予報で35度の猛暑が予想されたため、熱中症への懸念から1日延期して実施した。実施日も32度、33度程度であったが、熱中症気味になった生徒が数名いたものの、無事に終えることができた。本校の体育祭は伝統があり、生徒たちは勉強とは異なり、仲間と協働して一つのものを創り上げる経験を通して、人間関係の構築やコミュニケーション、協力、相手の考えを聞く姿勢などを学んでくれたと考えている。</p> <p>探究活動に力を入れて取り組んでいる。次期学習指導要領の議論が始まったがその中で、</p>

今後の学習の方向性を定める上で探究活動の重要性が言及されており、我が国において今後さらに力を入れるべき分野だと考えている。

本校の探究活動やその他の活動においては、企業などにご協力いただいている事例が多数ある。

様々なプログラムを通して、生徒は国際性と、他者を尊重する力といったものを育んでいる。

本校では探究活動に力を入れており、7月17日には3年生による研究の成果発表会を行った。特に優秀だった3年生3名の研究テーマ「電気刺激による植物の成長促進と農業への実用化」が、本校の代表として8月6日、7日に神戸で行われたSSH研究発表大会で発表するという成果を残した。先日12月9日には、2年生の研究中間発表が行われた。全国大会と比べてしまうと未成熟な部分が多く目に付いたが、着眼点の良い研究もあり、今後に期待したいと考えている。今年度から、研究指導において同窓会にも、多岐にわたる支援をいただく予定である。

10月24日、25日には文化祭である江麗祭を行った。

- テーマは「万博」で、クラスごとにテーマとなる国を決めて、各国の物語に触れながら展示などを行った。
- 生徒たちは、国際的な理解を深め、文化の多様性を感じ、多角的な視点を持つことを目指し、未来への希望と創造性を形にしてくれた。
- クラスの仲間と協力し、情熱を注いで一つのパビリオンを造り上げるかのような展示や発表、企画が行われた。

11月7日から10日までは、2年生が沖縄へ修学旅行に行った。途中、発熱者が数名出たが、全員無事に帰着した。

部活動における生徒の活躍として、嬉しいニュースが続いている。

- 競技かるた部
 - 2年生が、7月21日に滋賀で行われた第47回大倉百人一首競技かるた全国高等学校選手権大会の個人戦で優勝し、名実ともに日本一の成績となった。
 - 12月24日には知事への表敬訪問が予定されている。
- 放送委員会
 - 全国総合文化祭（全国総文祭）に県代表として2・3年生が出場している。
 - 2年生1名は、11月の県大会で2位に入り、来年の全国総文祭（秋）への出場を決めた。
- 陸上競技部
 - 2年生が、1000メートル関東選抜新人大会に出場し、1000メートルを4分33秒で走り、自己ベストを更新した。
- 自転車競技部
 - 2年生が関東大会に出場し、インターハイでも3キロのインディビジュアルパシュートという種目で3分43秒のタイムを出すなど活躍している。

先日 10 月 24 日に、令和 8 年度の生徒募集人数が発表された。本校は今年度と同様の 319 名募集（8 クラス規模）で、例年と変わらない。今後、我々は入試選抜の作業に入っていくことになる。

明後日 12 月 15 日（月）には、本校で公開研究授業を行う。お越しいただき、意見をいただければ幸いである。

本日は、学校評価報告と学校目標の実施状況に関する中間報告をする。その中で、授業改善、学力向上進学重点校エントリー校、SSH、地域連携の取り組みについて意見をいただく機会としたい。

本協議会は、学校のパートナー、また応援団として、学校と地域が協働してより良い学校運営を目指す仕組みである。本校の学校運営全般について、生徒の学びの充実のため、忌憚のない意見をお願い申し上げる。本協議会は、教育委員会へ意見を述べることもできるので、その点も踏まえて熟議いただきたい。

2. 学校運営協議会の開会にあたって

6 月 14 日（土）に開催した第 1 回平塚江南高等学校学校運営協議会の内容の確認。

- 教育委員会からの委嘱状をもって、平塚江南高等学校学校運営協議会が発足した。
- 委員の総意により、会長に宍戸様が、宍戸会長の指名により副会長に逸見委員が就任した。
- 神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱第 10 条で定められた学校設置部会として、授業改善部会、キャリア部会、地域・防災部会の 3 つを設置。宍戸会長からそれぞれの委員を指名された。
- 校長から学校のミッション、学校教育計画について説明があり、学校の教育計画、教育課程編成、学校組織の編成、学校予算、学校施設及び設備等の管理及び整備に関することについて、承認された。

3. 協議事項：令和 7 年度 学校評価報告書 中間報告

[宍戸会長]

昨年度から学校運営協議会の役割が拡充され、私と山崎委員が第三者評価を担うことになっている。委員の意見を踏まえて行っていきたいので、ぜひ江南高校の教育活動について忌憚のない意見を伺いたい。

ア 視点 1：教育課程と学習指導

① 授業改善（学力向上進学重点校エントリー校指標）

[植田総括教諭]

視点 1 の①に関して、授業評価アンケートの項目 3「生徒が自身の考えをまとめたり、解決方法について考える場面が設定されている」において、評価 4（肯定的な意見）が 50%以上であるという点は、学力向上進学重点校の指標の一つになっている。昨年度は 50%にわずかに到達しなかったのが、今年度も継続して取り組んできたが、前期の結果は 46.2%に留ま

った。

現在、12月の試験が終わり、2回目の授業評価を行っている期間である。この期間に入るにあたり、教科の代表者会議にて、課題を教科内で共有するよう伝えている。

教育活動としては、どの教員も課題について生徒が自身の考えをまとめたり、解決方法を考える場面を授業の中で設定しているが、それが生徒に伝わっていない、生徒が意識できていないことが原因であると考えている。

② 行事等を通じた資質・能力の向上

[森下総括教諭]

視点1の②について、生徒会行事の中で、情報活用能力、問題解決能力、論理的思考力の向上を目指している。行事後の生徒アンケートで、これら3つの力の向上が感じられたかについて、肯定的な意見を70%得ることを目標にしていた。

体育祭の結果は、いずれも目標の70%には及ばなかったが、要因の一つとして、体育祭が体育祭実行委員および3年生を中心として運営されており、1・2年生を十分に巻き込めていないことが考えられる。下級生も体育祭に主体的に関わる方法を工夫していきたいと思っている。中心となっている生徒(3年生や体育祭実行委員)については、様々な課題に対応しているので、これらの力の向上を感じていることと思う。

今後は合唱コンクール(1月)や球技大会が予定されている。生徒が自身の評価を過小評価する傾向があるため、具体的にどのようなことができたか力が向上したと評価してよいのかを明確に生徒に周知した上で、アンケートを実施していきたいと思っている。

〈質疑応答(視点1)〉

[新田委員]

体育祭のアンケートについて、生徒たちが「情報活用能力」や「問題解決能力」「論理的思考力」といった項目に対し、何を基準に「向上した」と感じたかを把握しているのか、資料を拝見した際に疑問に思った。次回から具体的に何ができて向上したかを明確にすると聞いたので、その方向性で理解した。高校生に問うのは少し難しすぎたのかもしれない。改善が必要な点だと思う。

[森下総括教諭]

具体的な問いかけ方についても検討していきたい。

イ 視点2：生徒指導・生徒支援

① 生徒指導・生徒支援の充実

[森下総括教諭]

今年度は5月と10月の2回、神奈川子どもサポートドックを実施した。SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)との連携、生徒への個別学習支援を行っている。SCは週の4つの枠は毎回全て埋まっている。

生徒のマナーについて、現在、自転車走行に関わる苦情が学校にこれまで10件程度入っ

ている。歩道の並進、六本門や富士見門に向かう生徒たちによる車の通行妨害といった内容の苦情がある。これについては、家庭連絡を通じて保護者にも指導の協力を求めている。集会などの機会に再度注意喚起をする。

交通ルールの遵守について、生徒に考えさせる機会を設けたい。

② 生徒の自主的な活動の推進

[森下総括教諭]

視点2の②については、部長会のみならず、部活動や生徒会活動においても生徒の自主性を育てていきたい。

部活動での生徒の活躍については、陸上競技部、自転車競技部、競技かるた部（全国一）など、活躍している生徒が多くなっている。放送委員会でも、神奈川県総合文化祭で司会を任されている実力の持ち主がいる。

生徒会活動に携わっている生徒は、学校説明会で本校の説明を積極的に行い、参加者からも高い評価を得ている。今後も生徒の活躍の場を増やしていきたい。

質疑応答（視点2）

[穴戸会長]

それでは、②の部長会の件について、「うまく調整できなかった」とあるが、これについてのお考えをお願いします。

[森下総括教諭]

部長会は教員が主導して開催することが多かったが、生徒たち自身で問題を考え、発見しなければ成長しないと考えている。生徒が主体的に活動できるようサポートしていきたい。我々教員側も、まだ力が及ばない部分があるため、これを機会にしっかり方向性を決め、全校に伝えていきたいと思っている。まだその取り組みが十分ではないということである。

[齋藤委員]

スクールカウンセラーの枠が週4コマということだが、増やすことは可能か。

[逸見委員]

スクールカウンセラーの配置は、以前は隔週だったものが毎週となった経緯がある。引き続きこの枠の要望はしていきたいと思うが、なかなか思うようなことができていない。

[穴戸会長]

令和6年度の報告では、部活動の加入率が減ってきていることが課題として挙げられていたが、現在の状況について、分かる範囲で説明をお願いします。

[森下総括教諭]

現在、正確なデータが手元にないため、お答えはできないが、感覚としては変わっていないという気がする。

ウ 視点3：進路指導・進路支援

[島川総括教諭]

今年度から共通テストが Web 出願になった。281 名が出願した。今年度からは個人で出願することになり、指定校の校内選考の後でも間に合うようになり、校内選考通過者が出願を取りやめたため、前年までより人数が多少減っている。

3 年生の進路指導に関わる資料を用意した。これは生徒に対し、随時連絡をした内容である。

もう 1 つの資料は、2 年生から 3 年生に対しての、受験への応援メッセージだ。また、3 年生は 2 年生に対して、来年 1 月を「3 年ゼロ学期」と呼び、受験が始まるというメッセージを送り、勉強方法などのメッセージを毎日行っている。これは体育祭のブロックの縦割りで、お互いを知っている生徒同士で行っている。

また、先日、LHR の時間には予備校の進路指導担当者を招き、1・2 年生を対象に進路講演会を行った。生徒も非常に真面目に、真剣に聞いていた。これは昨年から行っているが、来年度以降も継続して行う予定である。

一般受験の出願間近となった現在は、毎日 3 年担任が、昼休みや放課後に生徒との面談を行っている。第一志望を貫かせる指導は、担任や教科担当を中心にして地道に粘り強く行っている。

質疑応答（視点3）

[鈴木委員]

同窓会の役員会で時々話になるのは、SSH はもちろん、難関大学を目指す生徒へのサポートについてだ。現場の先生方がメンタル面も含めてサポートや応援をしていると思う。同窓会の若い OB・OG から、受験生へ向けたウェルカムメッセージのようなものや、進路の悩みに対するサポート、特に 1 年生ぐらいの時のモチベーション設定についてアドバイスができる機会があれば良いのではないかと考えている。

一般入試だけでなく、総合型選抜などの対策として、「自分がこんなことやってます」「こんなことやりたい」といったときに、大学の現場に近いところからのアドバイスができると良いのではないと思う。

非常にタイトなスケジュールで実施されている学校の活動に足し算をするのは大変なので、同窓会と学校で良い連携のきっかけを作れないかと考え、年明けの役員会で話してみようと思っている。

[穴戸会長]

若い OB・OG から、入試についてアドバイスをしたいということだろうか。

[鈴木委員]

オープンキャンパス的な「大学生活楽しいよ」だけではなく、「この研究室はこういうとこ

ろに就職している」「こんな風な研究をしている」といった情報があれば、偏差値順だけではない、別のモチベーションに繋がるのではないかと思った。希望があれば、難関校の同窓生など、若い人も含めて声をかけるのは同窓会から行うことも可能かと思う。

[宍戸会長]

この中間報告の書き方について、課題改善方策があまり書かれていないので、もう少し書いた方がよいのではないか。口頭で色々な話があったが、例えば①の改善策として、「基礎学力の充実に向けて日常的に書く、読む、計算する習慣を身につけさせる」というくだりはあまりにも基本的なことで、①の具体的な対策になっているのかという点について、説明のつながり方を説明してほしい。

[島川総括教諭]

世の中は進化しているが、学習のポイントは変わっていない。「基礎学力の充実に向けて」という基本的なことを書いているのは、実は校内だけでなく、全国的に起こっていることとも関係している。

例えば、ある難関大学の教員対象の入試説明会で、数学の採点者から「数字の 6、0、8 の区別がつかない生徒が非常に多いので、丁寧に書くように。丁寧に書くか書かないかが合否の分かれ目になっている場合が多い。また試験時間に対する耐久力をつけてから受験をするように」といった話があった。

数字がきれいに書けないというのは根の深い話で、例えばトンボ鉛筆のホームページを見ると、今一番売れている鉛筆が 2B であるが、50 年前頃は HB であった。これは、筆圧が非常に落ちていることを示している。原因の一つとして、小さい頃から鉛筆を持たない、字を書かない、つまりスマホやタブレットに頼る習慣がついていることが影響していると考えられる。普段のテストや小テストなどで、なるべく書かせるようにするなど、そういう部分で対応している。

[宍戸会長]

意図は非常によくわかる。大学教員が「学生が ICT に頼りすぎて、筆記で書くことをしないので、筆圧が弱かったり、書き方が悪かったりして、読み取れない」という話を聞いている。ただ、①の対策として、「データを示して見通しを持って学びをする」と書いてあるので、もう少し①について書いた上で、「ICT に頼りすぎず、授業において自分の言葉で大量に書くように指導する」といった内容を付け加える方がよいと思う。

それから、②の難関大学対策講座については 50%達成できているということで、大変良かったと思う。また、②の後半の「根拠に基づいて励ます指導を行い、生徒保護者の信頼を得ている」について、その判断の根拠はどのところなのだろうか。

[島川総括教諭]

保護者面談などで、保護者からのコメントをいただいているなど、形にはなっていないが、そのような声だ。

[穴戸会長]

それなら、「そういうことをやっていて、そこでそういうコメントをいただいている」と書かれる方が良いと思う。この空欄（課題改善方策欄）がちょっと寂しい。

これだけ先生方が努力されていることが、生徒一人ひとりにどれだけ届いているのかということが気になる。こんなにたくさんの連絡やプリントが出ている、それが一人ひとりの生徒に届いているのかということだ。

[島川総括教諭]

同じような連絡を何度も伝えている。模擬テストの選択科目数の調査なども、同じことを2回、3回やり、それでもできない生徒に対して、最終的に個別にクラスルームで伝えているので、届くという意味では届いていると思う。

[穴戸会長]

エール交換については、大変良い取り組みだと思う。それ以外に進路指導について何かあるか。

[齋藤委員]

電子黒板が導入されたということだが、ICTの活用により筆圧などのチェックは、難しくなるのかなと感じるが、どうされているのだろうか。

[島川総括教諭]

これから検証していく。

エ 視点4：地域等との協働

[大谷総括教諭]

地域連携も目的としながら、防災教室を実施した。この中間報告は10月中旬ぐらいにまとめたものだが、課題改善方策等の2点においては、既にその後の活動において達成されている。

今年度2回の防災教室を行った。今年度の目的は、生徒に平塚市（江南高校周辺）の災害リスクについて正しい知識を得ること、小中学校時代の守られる立場から、高校生になって地域に貢献できる目を持つこと、という2点である。

第2回について、アイデアを出すところから、齋藤委員、香取委員に大変ご協力いただき、非常にチャレンジングな内容であったが、無事終了したことをこの場で感謝申し上げる。

第2回について。

- 1年生と2年生で内容を分けた。
 - 1年生：ハザードマップを使いながら、防災DIGを行った。今年度は1・2年生ともグループワークを用いた。
 - 2年生：前半後半で分け、2種類のプログラムを全ての生徒が行った。
 - HUG（避難所運営ゲーム）：平塚市の災害対策課の助言により、生徒がグループで避難所になった時のシミュレーションをしながら、課題を解決していく。

- 避難所設営訓練：体育館で、実際に避難所のテントなどを組み立てるというもので、どちらも共創探究力といったものも目的とした。

これらの活動と平塚市職員による災害リスクに関する講話を通して、「新たな気づきがあった」「地域を意識することができた」「みんなで協力することができた」「情報から適切なものをまとめることができた」といった、本校の資質・能力（情報活用能力、課題設定解決能力、共創探究力）において、アンケート結果は肯定的な意見が70%以上を占めている。

また、第1回と第2回を比較しても、2回目の方が微増しているという状況もあり、地域を意識すること、防災意識を高めることに効果があったと言える。今後これを「江南モデル」として、次年度以降も継続してやっていきたい。

質疑応答（視点4）

[鈴木委員]

私は、平塚市の地域活動をサポートするNPO法人に所属しており、次世代まちづくりセミナーというのをやっている。その時に江南高校の2年生（女子）に参加してもらった。他校の生徒もいたが、平塚学園の生徒さんは強い思いでずっと活動が続いている。

江南高校の生徒の中には、少し元気がなくなってしまった平塚を盛り上げたいという思いで、自分たちでチームを作りたいという動きもあった。学校あるいは個人で、このようなことが、地域との協働のメニューとして提供できないかと思っている。同窓生も何人も関わっているので、このような活動をアナウンスして良いものなのかどうか。

[逸見委員]

こういう誘いがあるので広報してほしい、という依頼があれば、対応する。

[植田総括教諭]

「平塚市を発展させたい」という思いで、今年の1年生で研究テーマに選んでいる生徒もいる。その研究に対して、同窓会の方に手助けやアドバイスなどをしていただけるようお願いすることも考えているので、ぜひご協力をお願いする。

[鈴木委員]

そういうことであれば、ウィンウィンになれるのではないかという思いがある。今後そういうことがあれば、また学校側にご相談しながら対応させていただきたい。

[宍戸会長]

SSHで探究・研究などをしているので、そちらと重なる部分があり、今回も地域との連携の様子を、学校が目指す資質・能力との関係で分析されているのだと思っている。何をやっても、自分たちで資質・能力を育てるものなので、ぜひそういう力を持ってほしいと思う。

オ 視点5：学校管理・学校運営

[佐藤教頭]

不祥事防止研修について、企画会議ごとに啓発資料をもとに事故防止会議を行い、その後、各グループで不祥事防止研修を行い、その結果を再び企画会議の事故防止会議で共有するということを繰り返している。グループリーダーの意識が高く、各グループで活発な意見交換が行われ、今年度は今のところ事故・不祥事ゼロとなっている。

次に業務について、今年度4名の育児休業のうち3名について、代替の臨時的任用職員の配置がされなかった。3つのグループで実質定数減という状態になっており、教員の負担増となっている。業務アシスタント2名、業務サポーター1名が、印刷や製本業務、会計業務などを担って業務を進めている状況だ。

続いて地域連携の部分だが、前回、本校を知ってもらうためには生徒が発信するのが一番効果的であるという意見をいただいた。生徒が発信できる機会を増やす努力をしている。

- ・ 富士見地区のイベントに本校生徒がボランティアで参加した。
- ・ 富士見公民館の事業（書道教室）に書道部が協力する予定。
- ・ 先日、平塚青年会議所から七夕祭りの学生委員会への参加の打診をいただいた。これに参加希望者を募る予定である。

今後も生徒会の生徒を中心に、地域との関わりを持っていきたいと考えている。

質疑応答（視点5）

[穴戸会長]

視点5の学校管理・学校運営について、質問意見をお願いします。佐藤教頭、七夕祭りで子どもたちは何に関わるのだろうか。

[佐藤教頭]

青年会議所の方が見えて説明があったが、七夕祭りの運営、企画・運営を一から話し合う会に参加するという形になる。

[穴戸会長]

代替の臨時的任用職員が来ないというのは、中学校も同じなのだろうか。

[山崎委員]

同じである。全国的に本当に教員不足という状況なので、なんとか解消していただければと思う。増員措置をしたり、免許を持っている方を出してもらうよう、いろんなところでお願いをしているが、実際に出ない状況にある。

〈全体を通した意見交換〉

[穴戸会長]

それでは、視点1から5の全体を通し、委員の皆様から率直な意見、感想などをいただき

たい。山崎委員にまずお願いする。

[山崎委員]

駅からここまでの間に小学校、中学校、高校全部合わせると数千人の子どもが学んでいるのかと思った。改めて今日のこの資料を見て、子どもたちが一番多くの時間を使っている授業が魅力的であってほしく、我々大人が子どもに示すものは、やはり魅力ある授業作りだと今日改めて実感した。

先ほどの授業評価のパーセントが低いという声もあったが、子どもたちの意識もあるが、子どものせいではなく、我々の工夫や我々の仕掛けがどうだったのかというところに重点を置いて、これは小学校でも中学校でも高校でもそうだが、改めて国が今言っている「誰一人取り残させない」という、子どもの権利をきちんと守るという意味でも、学びを保障していくことが我々に課せられているところだと感じている。

先日、江南高校の教員3名が研修に来校した。中学生がキラキラと楽しそうに話していた。新鮮でした、子どもって純粋なんだという感想をいただき、我々も良い刺激になっている。

今申し上げたように、小学校から高校までの12年間の学びが縦軸でつながる意味はすごく大きなものがあり、そこを私たちは先に行く世代の大人として、教員としてのプロフェッショナルな立場から仕掛けていく必要がある、そういう責任があると感じている。

9月から12月と校長面接をしながら、3年生が受検校を決めていくのだが、やはり高校を決めた理由を聞くと、必ず見学に行った時の印象、「先輩が楽しそうにしていた」「授業が面白いよと先輩が言っていた」といった生の声子どもたちの心に届いて決めていたということがある。

体育祭や文化祭、説明会などで、ぜひ生の高校生の声を後輩（中学生、小学生）に届けてもらい、「江南高校に行きたい」「学ぶ意欲を持ってワクワクとここで学びを深めていきたい」と思わせてもらいたい。そんな子どもたちを自分も改めて責任持って育ていかなければならないと感じた。いつもここに来させてもらい、自分が学んでいる。

[矢野委員]

娘が昨年3月にこちらを卒業し、今大学1年生で8ヶ月経った。今でも高校の時の友達と繋がっていて、遊びに行ったりするのだが、「やっぱり高校の友達は一番落ち着く、一緒にいて楽しい」と言う。江南の子はみんなのんびりしている、おっとりしている、穏やかな子がすごく多く、校長先生がおっしゃっていた「他者を尊重する力」をすごく持っている子どもたちだ。本当に先生方の授業のおかげだと思っている。

最近面白いことがあり、ディズニーランドに行った際、VRで写真を撮っていたら、前にいた同世代の外国人の女の子もVRをやっていて、片言の英語と日本語で話すようになり、話が盛り上がり、「今度会おうよ」と約束して、また会った。その子は上智大学に留学しているアメリカ人女性で、「アメリカに帰ったらまた1年後に来るから」という話になり、娘が「その時まで英語を勉強しなきゃ」と言っていた。学びのきっかけはいつの間にできるかわからないと、今時の子だなと思いつつ、そういうきっかけでも何かやる気になってきて良かったと思う。

[新田委員]

アンケートの回答率について、さっき防災のところで 2 回目が少し少なかった思ったが、どれくらいの回答率で運用されているのか、また、アンケートの回収自体が半分ぐらいで、そのアンケートの回答をもって学校全体としての意見になるのかという点が気になった。

授業評価アンケートなどは私も回答率がこんなに低いことはまずなく、生徒たちも「回答しなくていいや」という気持ちになるとよくないので、アンケートの指導や、何のために何を取りたいのか、といったところを先生方の方でもっと見直してもいいのかと思う。全て低い回答率だとは思わないが、生徒の気持ちも含めて、アンケートを取る意義のところで、手間もかかっている部分をなんとかした方がよい。

[森下総括教諭]

視点 1 の②の体育祭の振り返りのところで、昨年度合わせて 410 件しかなかったという点については、アンケートの意味が全生徒に伝わっていないと、やりたくなくなるといったことにつながるので、アンケートに答える時間も与えなければならないだろうし、意味を伝えた方がいいところである。

[新田委員]

もう一つ、先ほどの質問でも出たところだが、学校案内に「こういう資質を育てます」と書いてあるが、それがどういうものかということが生徒さんにわかりやすく伝わっているかという点だ。中学生がこのパンフレットを見て、この資質という言葉で、すぐに「こういうことだ」とピンとくるのは難しいかと思う。実際に文字や単語にしたものが、どういうことを自分たちがしなくてはいけないか、目指そうとしているのかというところを、高校生に向けてうまく発信し、高校生が納得した形で「こういうことね、こういうことがこれにつながっている」というのがわかりやすくなるといいのかと思う。

6 つの資質を育てますと書いてあるが、具体的には、そのあとに学校も地域の子どもたちも含めて、「例えば 3 年間といったときに、その資質は何ですか？」と聞かれたときに、中学生や高校生がやらなくてはいけないこと、育ててほしいことってどういうこと、というのがうまく伝わるといいのかと思っている。

[香取委員]

防災について話すと、訓練とか、いろんな地元の方とか学校さんとかとお話するとき、高校生が一番やりにくい。なぜかというと、全くリアクションが返ってこないからだ。

しかし、今回は防災の資機材などを一斉に出してやらせていただいたところを見ると、結構他の学校よりも皆さん積極的な生徒であるという印象を受けた。生徒同士が集まっているのかな、というところだ。とはいえ、学年全体などで防災教室をやるとなると、全体への伝え方も難しいということがあったりするので、継続的にという話はされていたが、来年どうしようかと今から考えている。アンケートの回答率もあったが、読ませてもらい、作戦を考えようと思う。

地域の災害時とかいうのをもう少しうまく教えて、やっぱり地震とか、今年も大きな津波が来たりとか、先週も後発地震みたいな、いろんなパターンが出てきた。
そういったところを、うまく理解してもらうために、私たちの方も頑張りたいと思っている。

[宍戸会長]

学校の教員がうまく話を振って、その方と生徒との人間関係が一瞬にして和むような感じに持っていくよう、打ち合わせをしたりすることが大事だと思う。和やかにいかなかったために何分間も無駄にしたら本当にもったいない。

[齋藤委員]

生徒指導について、やはりなかなかその生徒の悩みとか困難とか、その解決の仕方って本当に難しいなという事件に先日直面してしまった。

心のシグナルを発見することの難しさを本当に痛感した。生と死のハードルが低いと改めて思うことがあったので、進学校ですので、進路の相談にしっかり乗っていただきたいが、そういった見えないところのサポートというのも必要であると強く感じたので、学校運営協議会でそこまで考えられるかということ、なかなか難しいかもしれないが、そういったところも含めた議論をしていけたらと思った。

[鈴木委員]

平塚市博物館で SSH 研究発表展を行うとあるが、これは一般の方も見られるということでもいいのだろうか。そうすると、中学生とか中学校の先生も行けることになる。

私は、地元の中学校の学校運営協議会にも出ているが、そこでやはり夏休みの宿題がポスターセッションで行われている。なかなかすごいものがあって、そういう何人かの子たちの次への展開性が期待される。山崎委員がおっしゃっていたつながりのところで、何かそういうことがつながっていくというのが見える場面として、江南生の探究の成果を見せてあげられる場面として、すごく重要だと思っている。

できれば、中学の校長先生で江南の同窓生もたくさんいるので、発信ができるといい。同窓会の人にもぜひ行ってもらいたい。同窓会の応援で若い人たちにこういうのを見てもらうと、「自分たちがやっぱり何か言うのは重要だ」と気づいてもらえると思うので、詳細が決まれば、早めに同窓会でも紹介もしたいので、是非お願いする。

[宍戸会長]

いただいた感想や意見を参考に、学校運営を進めていただきたい。それでは、報告に入りたい。

4. 報告

(1) 生徒による授業評価アンケート報告について

[植田総括教諭]

7月に集計したもので、それぞれの教科別でこのような数値、このような評価となっている。この数字を上回るために、今、教員の方で取り組んでいるので、またこの結果が出たところで、3月の次の学校運営協議会のところでは、最後の結果を示す。来年度以降の戦略についてお話しする。

次に、SSH研究発表展について、来年3月5日から4月19日まで、平塚市の博物館の2階の情報コーナーで、この期間（1ヶ月少し）展示をさせていただけることが決まった。無料で、どなたでもお入りいただける。ちょうど卒業式（3月6日）があるので、卒業式に来ていただいた保護者が、子どもと一緒に写真を撮っていただくとよい。

今年度初めての取り組みで、この時期になったのだが、博物館の館長さんとも話をし、来年度以降も続けていくことになった。恐らく次年度は7月に発表会が開ける予定なので、秋口（10月、11月あたり）にできればと思っている。今回は3月からということなので、3年生の生徒は卒業をすぐしてしまうのだが、新入生へのプロモーションも兼ねて、4月まで少し期間を延ばさせていただいた。

外部連携としては、先ほど校長から話をしたものの他、8月には日経STEAMシンポジウムに参加した。

それらについて、同窓生の皆様にお声掛けいただいた形で実現している。生徒たちも本当に意欲的に取り組み、日経STEAMシンポジウムでは、STEAMに関する新しい提案をしようということで、発表会に生徒が出て、優秀賞をいただいた。

また、理科的な話だが、11月3日の文化の日、県の総合文化祭の理科の発表大会に本校の化学部の生徒が出た。初出場だが、青少年センター館長賞を受賞した。上位の賞には届かなかったが、継続して生徒が頑張ると言っているのも、また来年期待したい。

11月23日の科学の甲子園神奈川県大会には生徒が8名参加した。惜しくも順位は振るわなかったが、精一杯頑張った。

この11月3日の理科部の生徒5名と11月23日の科学の甲子園の生徒8名を足して13名となったため、進学重点校エントリー校の指標の1つ「科学系のオリンピック参加者10名以上」を今年は達成できた。

また、11月25日（火）、共創探究の2年の防災ゼミで香取委員に来ていただき、平塚市の災害対策課による防災講話と、生徒の研究内容に関しての質問にお答えいただいた。生徒32名ということで、なかなか反応が分からない、おとなしい生徒もいた中ではあったが、授業が終わってから、もう一回戻ってきて、質問した生徒が2、3名いたので、こうした連携を深めて良かったと思っている。

12月16日（火）には、専門家の方による定性調査、インタビュー調査などの分析方法に関する職員対象の研修会として講師をお呼びする。

SSH2期目になって今年、外部の様々なところと連携した取り組みを行うことができた。来年度以降も続けていきたい。その場所場所で会う卒業生の方が、前向き、あるいは前のめりなマインドセットをお持ちの方々が多くて、現役の高校生にも、そういったマインドセットを大切にしてほしいと考え、それを教員間で共有している。

この課題研究の外部連携について、先日、鈴木委員と同窓会長、本校職員で話し合いをし

た。同窓会の方でもご検討いただけるということで、ありがたいお返事をいただいている。

2 期目ということで、教員の指導力向上を行い、生徒をもっと良くするという取り組みをしていきます。

3 月の次世代リーダー養成プログラムに今年度4名の生徒が参加する。進学重点校とエントリー校の生徒対象の海外研修で、ハーバード、MIT に行くもので、費用は85万から90万かかるものである。前向きに取り組む生徒たちが少しずつ出てきているので、そういう傾向が全体に広がるようにしたいと思う。

(2)学校予算の執行状況

[今福事務長]

① 代替教育費（学校施設の老朽化対策事業）

代替教育費において、昨年に引き続き、学校施設の老朽化対策事業として、1,300 万円の予算が予定されていたが、その実施結果について、簡単に説明する。

- 本館：職員ミーティングコーナーや椅子を設置。正面ロータリーから本館1階の廊下まではバリアフリー化し、トイレ、手荷物棚を置くなど整備。(8月完成)
- 中館：全教室24部屋の掲示板をエッジホワイトボードに交換。(8月完成)
- 北館：階段手すりが未設置だった廊下や中館東側の階段に手すりを設置。(6月完成)
- 西館：カーペットが貼ってあった自習室の床をペイントフィニッシュに張り替え。(9月完成)
- 体育館：南側の外壁に雨漏りがあったものの修復で再塗装を実施。(8月完成)
- 南館：テラス部の屋根と支柱の補修を実施。(9月完成)

これらに追加し、中館裏のトイレの解体や、中館の貯水槽を高さ調整し3,000Lと認められ、予算が採択されている。契約を完了しており、3月中に完了する予定である。

この他、学校施設老朽化対策分野の主な工事としては、視聴覚室の椅子と演台の入れ替え、生徒棟ポーチのドアのレールの修繕工事、ハンドボールゴールの更新などを実施している。

② オフィス改善事業費

今年度については、オフィス改善事業費として1,900万円が措置されている。このオフィス改善事業は、業務改善の一環として、県下の全高校に対し順次実施されているもので、本校は今年度実施ということだ。既に業者と契約も終了しており、この冬休み期間の12月25日から28日に実施される予定である。

これにより、職員室と情報室の机椅子、什器類が更新される。その他、諸会議室内の来客用の下駄箱更新や、会議場前の階段の改修などを予定している。これからも引き続きご協力をお願いしたいと思っている。

[穴戸会長]

いただいた意見を踏まえて、学校は目標達成に向けて努力してほしい。それでは、事務局に進行をお願いする。

	<p>5. 事務局から</p> <p>明後日 12 月 15 日（月）に、公開研究授業を行う。今年度は公開時間を 2 限目から 5 限目までとしている。公開授業に向けて教科で指導案を検討するなど、数週間前から準備をしている。近隣の小中学校の教職員の皆様にもご案内をし、市内の中学校から 2 校、参加する。</p> <p>合唱コンクールは、1 月 16 日（金）に、ひらしん平塚文化芸術ホールで開催する。</p> <p>第 3 回学校運営協議会および授業改善、キャリア、地域・防災部会を 3 月 14 日（土）午後開催する予定。</p> <p>[逸見校長]</p> <p>本日出席いただき感謝する。今回は中間報告であったが、引き続き教育活動の充実に向けて努力していく。</p> <p>閉会</p>
--	---